

## 2025 フクシマ連隊キャラバン報告書

全港湾東北地方小名浜支部 堀井 淳平

3月12日から3月15日に2025年フクシマ連帯キャラバンが行われました。今年も北海道から沖縄まで全国の仲間が約50人集まりました。地元民として少しでも福島現状を伝えられるように小名浜支部で準備を進めてきました。

今回は初めて通しで参加しました。広野町から浪江町まで移動しながら各町の説明をしたり、東日本大震災・原子力災害伝承館、東京電力廃炉資料館、請戸小学校見学などを行い原発事故の恐ろしさ、概要などを学びました。行ったのは初めてではないのですが行く度に原発事故の悲惨さを思いしります。そして原告団の方に震災後そのままになっている家を見学させていただきました。台風などの自然災害を受けても直しても住めないから直せず家が壊れて行くのを見ることしかできないし他の家も解体されて行くしかない話しを聞きとても悲しくなりました。意見交換ではこれまで築きあげてきたコミュニティが失われたのがとても残念だという話しがとても心に残りました。何十年も共に過ごしてきた周りの人と離れ、知らない土地でまた新たに関係を築き過ごしていかなければならないと自分も同じ立場ならとても辛いだろうなと思いました。

福島駅では隊員1人1人が街宣を行い思いを伝えました。私は初めて街宣を行ったのですが緊張であまり話すことができなかったので次回はもっと適切に思いを伝えら

れるようにしたいです。署名は思ったよりも協力してくれる人が少なく、なんの署名か聞いたうえで断られると今の原発に対する関心が持たれてないと実感させられました。なのでもっと知ってもらう事が如何に重要わかりました。署名ももっと工夫すれば若い子を中心に声を掛けて説明し協力してもらうことで原発事故に対して興味を持たせられたのではないかと気づきました。

原発事故が風化してきている今、大事だと思うことは自分達の若い世代が自ら学び、キャラバンのような行動を実行し続けていくことだと思います。そしてまた次の世代へと引き継ぎ、風化させないことだと思います。今回のキャラバンを通して自分もキャラバン隊もとても成長できたのではないかと思います。来年も参加するので今回初めて会った人、前から仲良かった人ともより団結してより良い活動にしていきたいです。